

～言葉の持つ力、伝える力～

佐野市男女共同参画都市宣言 キャッチフレーズ ～ 最優秀賞

認める 支える 分かち合う 個性かがやく 参画社会 新井隆太くん（高2）

平成28年12月10日（土）、佐野市文化会館で、佐野市の「男女共同参画都市宣言」キャッチフレーズの表彰式がありました。本校の新井隆太くんが**最優秀賞**を受賞しました。岡部市長から賞状をいただいた後、新井くん自ら、「佐野市のキャッチフレーズ」を発表しました。

新井隆太くん：「男女共同参画」という堅苦しい言葉の本質を短く記憶に残りやすいフレーズにすることに苦心しました。審査員の方から、現役の高校生に男女共同参画について興味を持ってもらえて嬉しい、という言葉をいただき、私も大変嬉しく思いました。

（審査員の方々は、電話で受賞の連絡をするまで、私が高校生だと分からなかったそうです。



栃木県中学校文化連盟 スローガン ～ 最優秀賞・優秀賞

平成28年11月11日（金）、第22回栃木県中学校総合文化祭が、黒磯文化会館で開催されました。スローガンの部門では、附属中生の作品が上位を独占しました。

最優秀賞 大川明日香さん（中2）

輝く 煌めく 私（わたし）の心 伝える 伝わる みんなの想い

作品が輝いていたり、煌めいていたりするイメージがありました。きっと、心を込めて書いたり、作ったり、演じているんだろうなと思いました。それを多くの人たちに見てもらおうことで、作品はますます輝き煌めくと思います。

優秀賞

輝く創造 広がる未来 僕（ぼく）らがつなぐ 文化の輪

岡田沙也加さん（中1）：いろいろな人が創造することが、未来につながっていることを伝えたいと思いました。

瞬彩 ～すべての時間の彩（いろ）いを 輝きを～

橋本梨花さん（中2）：一瞬一瞬の輝きを多くの人たちに見てもらいたいと思いました。



感謝の心忘れず
日々生活したい足利市 荒井 雅博
(中学3年 15歳)

◇僕が今まで生きてこれたのは、両親に支えられてきたからです。人が生きるためには必ず誰かの助けを借りることになる、という言葉をもっと前向き、確かにそうだな、と感じていました。

◇母は朝食、弁当、夕食を毎日欠かさず作ってくれています。父も、僕が通学する時に天気が悪いと駅まで車を走

らせてくれます。僕の生活のサイクルを回してくれているのは、紛れもなく両親です。ですが、毎日助けてもらっているのにもかわらず、それが当たり前になってしまいました。

◇僕は今年、高校生になります。当たり前になっていくことも、もう一度振り返ってみて、感謝の心を持ちたいと思いました。僕が今まで生きてこれたこと、これからも生きていけるように、日々の感謝の気持ちを忘れずに生活したいです。

宇宙の不思議
星空眺め考える佐野市 大門尚之将
(中学3年 15歳)

◇凍える寒さのこの季節に、夜空を見上げると、部活の疲れも吹き飛びます。そこには無数の星が輝き、瞬いていくからです。いつもその美しさに見惚れながら、部活の最後にストレッチをしています。

◇そんな星たちが存在する宇宙について、理科の授業で

学びました。宇宙は今の科学技術でも、全てを把握するのは難しいそうです。それだけ宇宙が広く果てしないということです。

◇もし宇宙がなかったらと考えると、地球も僕たち人間も存在しないことになりそうです。そう考えると、不思議でいっぱいになります。本当に不思議になります。宇宙があり、地球があり、僕たちが生きていくことは、まさに奇跡です。

夢を持てると毎日が楽しい

中学生 有澤音羽 15

私は中高一貫校に通っている。受験がないので、中学3年のこの1年も時間にゆとりがあった。しかし、初めは何をしただろうのか分からなかった。興味があっても夢もなかった。

そんなとき、昨夏のリオデジャネイロ五輪をテレビで見ていると、選手の近くでボランティアとして記者の誘導などをしていて人が目に留まった。私は「これだ」と思った。ついに興味があること、夢を見つけたことができたのだ。

(栃木県佐野市)

現実見詰め直し
夢を見つけない佐野市 長島 旭
(中学3年 15歳)

◇僕は最近、友人と将来について語り合つことが多くなった。多くの友人は夢を持ち、生き生きと話してくれる。その姿が僕にはとても輝いて見える。

◇僕にはまだ夢が見つからない。そんな中、ある言葉に出会った。「未来を語る前に、今の現実を知らなければならぬ」。オーストリ

ア出身の経営学者、ピーター・ドラッカーの言葉である。僕は将来のことばかり考え、今のことについて考えていなかったのだ。きっと、夢を持つ人は、今の現実についてよく知っているのだろう。

◇中学生の今、できることはたくさんある。もう一度、自分自身のことや社会のことについて、よく考え直したい。そして、夢を見つけない、それに向かつて全力で努力していきたい。

自分の国・地域にも目を

中学生 荒井 真優 15

(栃木県栃木市)

先日、ある新聞記事に目が留まった。それは、現在、小学5、6年生で取り組んでいる「外国語活動」を3、4年生に引き下げ、5、6年生は教科書を使う正式な教科にするというものだ。

しかし、未来の日本にとって、本当に糧になるのか不安を感じた。子どもたちが、グローバル化を意識しすぎるあまり、日本に目を向けなくなるのではないかと。世界に目を向けることは、今の競争社会では大切なことだが、自分の住む国や地域に目を向けることも、とても大切なことだと思う。

英語出てこず悔しい

中学生 小倉 大輝 15

(栃木県小山市)

私は電車で通学しています。ある日、車内で、私の隣の座席に外国人が座りました。彼は周りに迷惑のかかるほどの声で電話で話し始めました。

私は注意しようとしたが、言葉が出てきません。毎日勉強しているはずの英語が、口から出てきませんでした。とても悔しかったですが、英語を話せることは大切なこと、改めて感じた瞬間でもありました。

やはり、国籍が違う人との意思疎通には英語が必要です。これからも、英語を学び続けたいと思います。

中学3年生の社会科(公民)の授業では、「新聞を読もう」という取組の一環として、冬休みに「新聞に意見を投稿しよう」という課題を出しました。生徒たちは、それぞれ、自分の家で取っている新聞等に投稿しました。現時点(2/2)で、6名の生徒の投書が掲載されていますので、その全文を紹介します。今後、さらに掲載される可能性がありますので、各新聞の投稿欄にご注目ください。